

養父市立関宮学園 令和4年度 学校 評価

令和5年2月21日

1 学校教育目標

夢や目標を持ち、自ら学び、こころ豊かでたくましい児童生徒の育成

2 重点目標

- ①義務教育学校の特性を最大限に生かした学校づくりを進める。
- ②確かな学力を定着させるとともに自主的に活動する態度を養う。
- ③道徳教育や体験教育を充実し「心の教育」の推進する。
- ④両課程の教職員が協同して、資質・能力の向上を図る。
- ⑤学校・家庭・地域が連携し、生きる力を育むとともにふるさとを誇りに思える環境づくりに努める。

3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

分野	評価項目	達成状況	学校の取組状況及び改善の方策等
学校運営教育活動	義務教育学校としての学校運営	A	○義務教育学校3年目となり、前期課程・後期課程の教職員交流がよりスムーズになり、児童生徒会活動や行事・体験活動に工夫を凝らしたり、9年間の系統性とICTの活用を意識した教科指導力の向上を図ったりすることができた。 ○前期課程・後期課程の教職員による乗り入れ授業により、それぞれの持ち味と専門性を生かし、子どもたちの学習への関心を高め、学力・技術力・思考力の向上につなげることができた。 ○行事や日常生活で前期課程の児童と後期課程の生徒が交流することで、生徒が小さな子へ配慮すると主体的に考え行動する場面が増えた。それにより、5・6年生にもよい刺激が得られ、前期課程のリーダーとしての自覚や責任感が育てられている。
	地域とともにある学校づくりの推進	B	○コロナ禍によって制限されていた行事や活動も随分取り戻しつつある。また地域の方・関係機関にも協力いただき、地域教材の活用や出前授業等も実施できた。 ○学校だよりや学級通信等で、定期的に学校からの情報発信が行えた。HPがリニューアルし、積極的に学校生活の様子を発信した。さらに、自治協だよりに「関宮学園トビックス」を掲載し、保護者だけでなく、地域の方々にも関心を持っていただけるよう取り組んだ。 ○「そうあんくん通信」を発行することにより、「そうあんくんの日」の前・後期課程の取組を推進し、全校生・全家庭を連携させ、活動内容の充実につなげることができた。 ○運動会で地域席を設け、地域の方にもご観覧いただいた。 △地域に根ざした学校づくりを進めるため、学校運営協議会を通して、各自治協との連携を進めていく。
	危機管理体制の整備	B	○安全点検の定期的な実施、防犯グループと連携した登下校指導を行うことができた。 ○避難訓練は毎回様々な場面を想定して工夫して実施することができ、不審者対応訓練、引渡訓練等も行うことにより危機管理能力は一層高まっている。 ○保護者へのメール配信システムの活用が浸透し、大変有効であった。 ○新型コロナウイルス拡大防止のため、感染対策を徹底することで、今年度は多くの行事・活動をこれまでに近い形で実施できた。 △外来者への対応等、安全安心な学校づくりの推進を図っていく。
	教職員の協働体制	B	○前期課程・後期課程との情報交換や分掌担当の相談が気軽になされ、義務教育学校ならではの取組を日頃から進めている。 ○ノー会議デー・定時退勤日の完全実施を行い、その他の日についても業務の効率化を図り、残業時間の縮小に繋げている。 ○平日1日、土日どちらか1日のノー部活デーを完全実施できている。 △今後業務内容の整理と精選を進め、持ち帰り仕事や休日出勤の軽減を目指す。
	教職員の資質向上 (研修、体罰・ハラスメント防止)	A	○前期課程・後期課程の教職員が協働して、ICT機器活用や授業改善、情報モラル指導などの校内研修にそれぞれの特性を生かしながら取り組むことで、指導力向上につながった。 ○体罰・ハラスメント防止について研修等を継続的に行っている。 △学習者用デジタル教科書の導入が進みつつあるが、それらの活用について研鑽を積む必要がある。
	生活指導	A	○生活アンケートや個人面談等で、いじめの未然防止はもちろん、早期発見、早期の丁寧な対応につなげることができた。 ○前期・後期課程それぞれの生活指導日誌を全職員に配信することにより、情報共有することが常態化した。そのことにより、子どもたちに対しきめ細やかな指導につなげられ、家庭との連携が適切に行っている。 ○不登校担当教諭、SC、SSWとも連携をとり、ケース会議等で情報共有を図りながら相談を進めていくことができた。 △不登校への対応、不登校未然防止のためのプログラムをSCと連携して進めていく。 △スマホの所持率も上がり、タブレット利用と併せてSNSやゲームへの依存やトラブル防止に向け、継続的な指導を家庭と連携して行っていく必要がある。
教科指導	自ら学び、自ら考える力の育成	A	○他学年との交流学習を率先して行うことで、自分たちの成長を感じたり、目標とする将来の姿を想像したりすることで、学習に対する意欲向上につながった。 ○ICT機器の活用により子どもたちが慣れてきている。それと合わせて対話による学習活動も増え、児童生徒の自ら調べ、学が意欲が高められた。 △宿題の出し方や量について検討し、個々の主体的な学びを家庭で進められるように工夫改善していく必要がある。
	基礎の定着と個に応じた学習指導	B	○学習規律の徹底を図り、落ち着いた学習できている。兵庫型学習システムを活用した専科指導、同室複数指導は効果を上げている。 ○ICT機器を活用し、個々の学習スピードや理解度に合った学習活動が進められるようになった。 △系統性とともに効果的な同室複数指導の活用や指導方法、定着度合いを検証し、前期課程から後期課程へと9年間の指導の流れを互いにもっと知る必要がある。
	道徳教育	B	○授業時数が確保され、年間指導計画に基づき計画的に授業を行うことができた。 ○ICT機器を活用した授業展開や他学年と合同の授業を行うなど工夫を凝らして実施することができた。 △授業参観等で直接保護者や地域の方に授業公開し、保護者・地域と連携した道徳実践力の向上を図っていく。
	外国語教育	B	○後期課程の英語教諭が前期課程の外国語指導にあたることで、充実した授業展開を進めることができた。 ○ALTを積極的に活用することで、子どもたちに会話の楽しさを感じ、抵抗感を減らす工夫がなされている。 △学習者用デジタル教科書の効果的活用について研鑽を積む必要がある。
	人権教育	B	○人権作文の作成や人権教育講演会に参加するなど、人権意識の高揚を図ることができた。 ○女子制服のスラックス見本を紹介することができた。 △学校行事や体験活動、学校生活の場面で指導を生かし、自尊感情や自己肯定感を育み、周囲への人権意識、福祉意識を高めることを継続して指導していく必要がある。
課題教育	特別支援教育	B	○校内教育支援委員会のもと、個に応じた指導・支援、保護者との連携等が組織的に行った。 ○通級指導を積極的に活用し、指導員と連携して個別の支援に取り組むことができた。 △全児童生徒理解を進めるため、全教職員による「子どもを語る会」を実施していく。
	キャリア教育	B	○行事のねらいもキャリア教育の視点から挙げ、地域教材の活用、地域の人材との交流等、9年間を見通して実施している。 ○7年生では地域の社会人を外部講師として招聘し、これまでの経験や実際の様子を聴く貴重な機会とすることができた。 △キャリアパスポート、キャリアノートの効果的な活用を研修していく必要がある。
	安全・防災教育	A	○交通安全教室、避難訓練及び日々の学習の中で指導をされ、危機管理能力を高められている。 ○1・17追悼集会や避難訓練などを通し、防災意識の向上を図ることができた。 △避難訓練とともに安全・防災の意識向上に繋がる体験活動を取り入れていくことを検討していく。
	特別活動	B	○後期課程文化祭に前期課程児童が参加するなど、新しい取組が子どもの成長や意欲に繋がっている。 ○児童生徒会の活動は、自分たちの学校生活の向上に向けて、自治的な活動をめざし取組が図られている。 △生徒会執行部が2学年からの役員組織になり、生徒会の運営の仕方も新しく考えていかなければならない。
	その他の課題教育	B	○栄養教諭や地域ボランティアと連携し、食育指導を推進することができた。「手作り弁当の日」の取組が定着している。さらにマナーや食の大切さを学び、健康意識にもつなげていく。 ○歯磨き指導や、睡眠指導(ねるねるウィーク)に力を入れ、取り組むことができた。 △福祉教育活動は、限られた学年に集中的に計画されている。施設の関係もあるが、福祉活動への学びの場を拡げ、継続性のある取組にしていくことを検討する必要がある。 △プログラミング教育について、技術科の教科指導だけでなく、9年間での到達目標を見定め、各学年、様々な教科の中で取り組んでいく。

4 学校評価の実施方法及び総合的な学校関係者評価

- 実施の方法
- ・9月及び1月に全職員による学校自己評価を実施
 - ・1月に保護者にアンケートを実施
 - ・2月20日に学校関係者評価委員会(学校運営協議会)を実施
- 総合的な学校関係者評価
- 義務教育学校3年目となり、義務教育学校の良さ、地域とともにある学校づくりの進展を感じる。さらに、学校運営協議会としても地域側ができることを模索し、双方向で行う教育を推し進めていきたい。本校での研究推進が、今後他市町で開設予定の義務教育学校の良き参考モデルとなるよう、今後も教育推進に力を注いでほしい。

5 評価項目ごとの学校関係者評価

学校関係者評価
<p>・「自治協だより」に学校のことを掲載したり、4自治協の情報交換会に学校長が参加したりと地域とともにある学校づくりが前進している。学校と地域との双方向で行う教育が大切である。地域からも情報提供し、ともに取り組むスタンスで協力していきたい。地域を含めた学び合いの研修等、そのような場や機会も考えていきたい。</p> <p>・手本の少ない中、義務教育学校として様々な取組を進めていただき感謝している。他校やこれからの義務教育学校の参考となる取組がなされている。本校でもより研究を進め、義務教育学校としての先進的な取組を発信し続けてほしい。</p> <p>・市としての取組を含め、人権教育を時代に合わせたものにしていくべきである。</p> <p>・部活動の「地域移行」については田舎では一層難しい側面がある。継続性に課題がある。学校運営協議会等、協力できることはないか検討していきたい。</p> <p>・個別に対応したり、校則の見直しを図ったり、生徒一人ひとりに寄り添う教育が進められていると感じる。</p> <p>・ホームページの更新が頻繁に行われ、見るのを楽しみにしている。先生方の熱意が感じられる。先生方も生き生きとされ、子ども達がとても楽しそうに学校生活を過ごしている様子を感じられる。</p> <p>・こども園との交流を頻繁に行っていただき感謝している。特色ある学校づくりの1つとなっている。</p> <p>・タブレットを使用した授業が多く、研鑽に励まれ、時代に即した授業づくりを進められている。併せて情報モラル指導の必要性を感じた。</p> <p>・不登校となるきっかけや理由がつかみづらく対策の難しさを感じる。不登校生徒への働きかけに学校運営協議会も協力していきたい。子ども達の不適応は自分の思いを伝えることに課題があり、我慢してきたことが限界を超え、一気に表面化しているところがある。今後の選択肢を考えていくことが大切なのではないかと。環境の変化で人間も変わる部分があり、子どもたちの背中を後押しすることに協力していきたい。</p> <p>・睡眠や食育など生きていく上で大切なことであり、そのような講演を聴くことができる機会を設けていただきたい。</p> <p>・年度当初より先生と子ども達との距離が近くなっていて、関係性の良さを強く感じた。学級経営がうまく進められていると感じている。子ども同士も仲が良く、それが関宮の良さでもある。継続している人間関係の良さを今後も発展して行ってほしいと思う。</p>